

(2008年6月16日付)

香川県坂出市立府中小学校

宮下良造校長、児童274人

まずICT機器活用法を研究



坂出市内の学校はコンピュータ室の整備こそ進んでいるものの、普通教室や校内LANなどの整備は遅れているという。府中小も例外ではない。

「授業実践リーダーの藤川直人教諭＝写真＝は、同校としては現状を打破し、子どもたちの意欲の向上と基礎・基本となる学力を定着させるためにICTの効果的な活用方法を把握したいところ。実は、同校は19年度にも十分に備わっていない。松下教育研究財団の助成を受け1教室をメディア教室にした経緯がある。その結果、ICT活用が打ち明ける。」

ICTを使える教員もその結果、ICT活用が

マニュアル作って習熟度高める

子どもたちを積極的に授業に参加させる上で効果のあることが確認できた。この経験はぜひ生かしたい。今回の特別研究指定校助成の申請に当たって「すべての普通教室におけるさまざまなICT機器の効果的活用方法の研究」を目的に掲げた背景にはそうした事情があった。

「まずはICT機器を備えることが一番」。態勢の整備を第1歩として、研修、活用のアイデア集やマニュアルの作成などを進めて習熟度を高める。全教員による研究授業も2年間で一人1回以上は行えるようにステップアップし、最終的に子どもたちの意識調査を実施して成果を評価したい、と藤川教諭らは活動計画を描いている。

次回は7月7日付掲載

◇この連載は、(財)松下教育研究財団 (URL=http://www.mef.or.jp/) および助成先の協力により実施しています。